

令和4年度 学校経営計画に対する自己評価【最終報告書】

石川県立羽咋高等学校

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組(改善策等)
<p>1 確かな学力と進路実現の保障</p> <p>探究型学習の推進やICTの効果的な活用など、授業改善を進めることで学びの質を向上させ、生徒の思考力や主体性等を育み、進路実現へとつなげる。</p>	<p>① 授業改善を進め、生徒の思考力や表現力などの学力の向上と主体性をもって協働して学ぶ態度の育成を図る。</p>	<p>授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっていると答えている生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>学校評価アンケート(生徒)</p> <p>「A.よくあてはまる」:30.6% 「B.まあまああてはまる」:61.5%</p> <p>「A+B」92.1% →A評価</p>	<p>教員は常に授業改善に努めている。その試みが、生徒にも伝わり、前向きに授業に参加している。また、欠席した生徒に対応するため、リモートで授業を受けられるようにするなど、学習活動の遅れにならないような工夫も行っている。</p> <p>今後も、クロムブックなどICT機器を大いに活用し、生徒が主体的に活動できるような授業づくりに取り組み、学力向上のために指導力をさらに磨いていく。</p>
	<p>② 習熟度別授業等の改善を図り、個に応じたきめこまかな指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業の検証 ・学習意欲につながる授業改善 ・教科研究会等の充実 ・学力層に応じた指導方法の確立 	<p>習熟度別授業が学力向上に効果的であると答えている生徒の割合が90%以上の教科が</p> <p>A 3教科 B 2教科、またはいずれも80%以上 C 1教科、またはいずれも70%以上 D なし</p>	<p>学校評価アンケート(生徒)</p> <p>国語は2年・3年文系、数学は2・3年、英語は全学年で実施。</p> <p>「A.とても効果がある」「B.ある程度効果がある」</p> <p>国語:「A」29.5% 「B」66.8% 「A+B」96.3% 数学:「A」47.3% 「B」48.3% 「A+B」95.6% 英語:「A」50.4% 「B」46.8% 「A+B」97.2% →A評価(3教科90%以上)</p>	<p>「A+B」の合計ポイントは</p> <p>国語(第1回比+8.6%)(昨年第2回比+0.9%) 数学(第1回比+3.8%)(昨年第2回比-1.2%) 英語(第1回比+5.9%)(昨年第2回比+5.8%)</p> <p>第1回の調査と比較すると、すべての教科で数値が上回っており、習熟度別授業が効果的であると肯定的に捉えている生徒の割合は高い。今後、さらに授業改善に励み、それぞれの学力層にあった効果的な指導について工夫し、学力向上に取り組む。</p>
	<p>③ 高い進路目標を達成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業・個人面談・進路学習等を通して進路意識の高揚を図る。 ・難関大学志望者に対する添削、補習指導など組織的指導を充実する。 ・習熟度別の補習や課題を工夫し、受験に対応した指導を行う。 	<p>ア:難関10大学・国公立医学科合格者3名以上 イ:金沢大学合格者15名以上 ウ:国公立大学合格者80名以上</p> <p>以上ア〜ウの項目のうち達成した項目が</p> <p>A 3項目 B 2項目 C 1項目 D なし</p>	<p>令和5年度入試 選抜結果</p> <p>ア 1名(国立大学医学科) イ 14名(目標の93%) (内 過年度生1名) ウ 77名(目標の96%) (内 過年度生6名)</p> <p>D評価</p>	<p>8年ぶりに国公立大学医学科に合格者が出たことや、初の4クラス規模の3年生となった選抜で、過去5年で最も多い14名の金沢大学合格者が出たことなど、良い結果もみられたが、目標達成には至らなかった。</p> <p>大学入学共通テストや総合型選抜など、多様な選抜方法に対応した学習指導のあり方を検討・工夫し、生徒の志望を実現していく。</p>
	<p>④ 学習習慣の確立</p> <p>1・2年生全員の家庭学習時間が平日3時間以上、休日5時間以上となるように、個人面談・授業での予習指導・週課題で指導する。</p>	<p>年間の平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合が、</p> <p>A 1・2年生ともに 65%以上 B 1・2年生ともに 50%以上 C 1・2年生ともに 35%以上 D 1・2年生ともに 20%以上</p>	<p>家庭学習時間調査結果</p> <p>1月までの平均学習時間3時間以上の生徒の割合(前年比)</p> <p>1年 15.8%(-11.1%) 2年 36.8%(-8.1%) →D評価</p> <p>平日の平均学習時間</p> <p>1年 1.9時間 2年 2.7時間</p>	<p>担任面談や進路指導行事等を通して早期に進路目標を設定させ、授業の予習・復習や週課題に取り組む学習習慣を定着させるよう努めてきたが、結果につながらなかった。</p> <p>特に1年生への対策が急務であり、進路実現のためには十分な学習習慣が不可欠であることを自覚させる方策を検討する。</p>
<p>学校評価関係者委員会の評価</p>	<p>特に1年生の学習時間が増えていないことに言及があった。学習時間が減って何の時間が増えているのか検証してほしい。</p>			
<p>評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>生徒面談はこれまでもやっていたが、より効果的なものに変えていく。</p>			
<p>2 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養</p> <p>あいさつの励行から始まり、全ての教育活動を通して規範意識を高め、他者を思いやる心を持った、心身共に健康な生徒を育成する。</p>	<p>① 「あいさつの徹底」を通して規範意識を向上させ、自ら考え行動できる生徒を育成する。</p>	<p>第2回学校評価(生徒)で、「挨拶をしていますか」の問いに、「①必ず挨拶する」「②だいたい挨拶をする」と答えた生徒の割合(①+②)が</p> <p>A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満</p>	<p>学校評価アンケート(生徒)</p> <p>① 必ず挨拶する 70.2% ② だいたい挨拶をする 27.7% (①+②)の割合 97.9% →B評価</p>	<p>昨年同期比で1.3ポイント上がっている。しかし、自ら積極的にすすんで挨拶をしている生徒は、まだ少ないのが現状である。</p> <p>今後も継続して授業や学校生活の中で挨拶を積極的におこなうように指導していく。</p>
	<p>② 生徒間のネットトラブル等を未然に防止するための方策として、いじめに関する校内研修会やスマホ・ケータイ安全教室などを実施している。</p>	<p>研修等によって理解を深めた、いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を常に心がけ、日常の生徒指導において実践している教員の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>学校評価アンケート(教職員)</p> <p>A よくあてはまる 24.1% B おおむねあてはまる 69.0% (A+B)の割合 93.1% →A評価</p>	<p>昨年同期比で1.5ポイント減少している。</p> <p>クロムブックの使用方やネットトラブル等の未然防止について、今後も継続して指導していく。また、いじめ問題についても教職員が連携して未然防止指導をしていく。</p>

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組(改善策等)
	③ 文武両道の実践のため、学習時間の確保と部活動の時間・内容を充実させ、運動部は北信越大会以上、文化部は北陸大会以上を目指す。	北信越大会・北陸大会以上の大会に出場した部活動の数が A 12部以上 B 9部～11部 C 7部～8部 D 6部以下	北信越大会出場(陸上競技、剣道、空手道、なぎなた、柔道) 全国大会出場(陸上競技、剣道、軽音楽) 北信越新人大会出場(剣道、弓道、空手道) →B評価(のべ11部)	今年度は個人種目で上位入賞を果たす成績が目立った。全国大会には、陸上競技と剣道の女子が個人で出場した。団体種目でも剣道女子・弓道女子・なぎなた・空手道男女で北信越大会に出場している。文化部では新聞が県予選を勝ち抜き、来年度の全国総文出場権を獲得し、軽音楽が今年度全国総文に出場した。来年度も文武両道の実践に取り組み、ひとつでも多くの部活動が北信越(北陸)大会に出場することを目指す。
	④ 基本的な生活習慣の確立の第一歩として、全ての生徒がバランスの良い食事を摂るよう指導する。	保健・相談課のアンケートでバランスの良い食事を心がけていると答えた生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	学校評価アンケート(生徒) 「毎日バランスよく3食食べている」と解答した生徒 60% →D評価	昨年までは、ほぼ毎日3食きちんと食べている生徒は9割以上、バランスを考えて食べている生徒は8割以上いたので、今年度は両方を考えて食べている生徒を調べてみたが、60%に留まった。来年度は質問内容と選択肢を精査し、より生徒の実態がわかる質問項目に変える。
	⑤ 部の顧問に協力を得て部活動単位で校外外を問わず、積極的にボランティア活動をする。また、全校生徒にも呼びかけを拡大し、個人で行うボランティア活動を充実させる。	ボランティア活動を複数回実施した生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1年生:78.1% 2年生:75% 3年生:67.3%(前期のみ) 全体:73.5% →B評価	今年度は個人活動を主に行い部活動としても協力する方法に方法を変えたせいもあってか実施率が46.5%アップした。短時間で回数をこなすボランティアを計画したため参加者も増え、少しずつではあるが奉仕の精神を向上させることができた。来年度も実施率を向上させる。
	⑥ 『図書だより』、『図書館報』、読書啓発企画を通して、新着図書の紹介や読書の楽しさを啓発し、読書習慣を身につけさせる。	生徒一人当たりの貸出数が A 4冊以上 B 3冊 C 2冊 D 2冊未満	生徒一人当たりの貸出数 4.1冊(生徒数 458人) →A評価 R3年 5.1冊(生徒数 492人) R2年 3.1冊(生徒数 552人) R1年 3.2冊(生徒数 598人)	今年度の生徒一人当たりの貸し出し数は4.1冊であった。昨年度よりクラス数が減ったことや、新入生に対して図書館の使用説明の時間が十分取れなかったことが昨年度よりも減少したことの原因として考えられる。 評価はAとなったが、来年度は新入生の入学ガイダンスの一環として図書館の説明を入れてもらう予定であり、加えてクロムブックの起動画面に書籍の紹介を載せる。
	⑦ 体育の授業における体づくり運動や年間を通しての補強運動、チーム練習を主体的に取り組みせ、体力の向上を図る。	スポーツテストにおける持久走の結果で、全学年男女別の6部門中、全国平均を上回った部門が A 4部門以上 B 2部門以上 C 1部門 D 0部門	持久走について 2年男子のみ全国平均を上回った(6部門中1部門) →C評価	今年度のスポーツテストにおいて、持久走の全国平均を上回ったのは2年男子のみであった。他の部門においては全国平均を下回り、本校生徒の全身持久力の低さがわかる。秋にマラソン大会に向け持久走を行っているが、次年度に生かされていないことから、マラソンの時期だけでなく、定期的に持久力を高められるような運動を考える。
学校評価関係者委員会の評価	部活動やボランティア活動など地域に発信できるものを増やすべく、今後も続けてほしい。			
評価結果を踏まえた今後の改善策	文武両道はこれまで通り、ボランティア活動はこれまで以上に取り組みをすすめていく。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組(改善策等)
3 地域から信頼される学校づくり 「未来塾」やボランティア活動を通して地域とつながり、医療や教育の分野をはじめ地域に貢献できる人材を育成し、地域から信頼される学校づくりに努める。	① 授業公開やオープンスクールを実施することで、中学生・保護者・地域に本校を理解してもらえるように努める。 ② 学校説明会、羽咋高校だより、地区別高校説明会、未来塾のPR等の実施に関して、内容・方法に工夫改善を加え、今まで以上に、地域住民、中学生や保護者に本校を理解してもらえるよう努める。 ③ 保護者や外部に向けて月毎の行事予定表や実施した行事・部活動報告など、最新の情報をこまめに迅速に提供することに努め、本校の教育活動への関心・理解を深める。	参加者によるアンケート調査で本校の理解度が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 一般志願倍率が A 1.1倍以上 B 1.05倍以上 C 1.0倍以上 D 1.0倍未満 保護者アンケートにおいて本校のホームページが「①役立つ」「②やや役立つ」と答えた保護者の割合(①+②の合計)が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	体験入学に参加した中学生のアンケート 「本校のことがよく理解できた」の項目で、 「Aよく理解できた」58% 「Bまあまあ理解できた」42% 「A+B」100% →A評価 令和5年度入学学力検査 確定志願倍率1.04倍 →C評価 学校評価アンケート結果(保護者) ① 大変役立つ 32.8% ② やや役立つ 55.9% ①+② 88.7% →A評価 R3年度 87.0% R2年度 87.0%	アンケートでは、「生徒による運営」のA評価が93%、「先輩と語る会」のA評価が88%、「部活動見学」のA評価が84%であった。本校生徒が関わる場面の評価が高かったことから、本校の特徴だけでなく、中学生にとって理想の高校生像を示すことができたと思われる。今年度はコロナの影響で、体験入学の参加者を中学生のみとしたが、今後は、保護者や中学校教員、地域の人々が本校の特徴を理解できるよう、体験入学の在り方を工夫し、地域に開かれた学校づくりを推進していく。 授業改善をはじめとする教育内容の充実を推進するとともに、学校行事や部活動の充実を図ることでニーズに応える学校づくりに努めている。各中学校が開催する説明会への参加、地区別説明会開催など、様々な機会を捉えて広報活動を行った。地区別説明会への参加者数から本校への関心は引き続き高いものと考えられる。本校の魅力を積極的に外部に発信し、志願者数の増加につながるよう生徒募集に全力で取り組む。 一昨年にウェブサイトを一刷新して以来、保護者より一定の評価を受けている。各課、部、委員会がそれぞれに工夫して情報を発信しており、今後も高い頻度で情報を更新する。
学校評価関係者委員会の評価	中学生に選んでもらえるような学校の魅力づくりを行ってほしい。また、対面での姉妹校交流の再開に伴い、学校の特徴として国際交流を続けてほしい。			
評価結果を踏まえた今後の改善策	進学校としての実績を残すことにより、中学生にアピールする。姉妹校交流の再開にむけて、早目の準備に取りかかる。			
4 教職員の多忙化改善 教員どうしの協働する力を大切にし、業務の効率化を図ることで時間外勤務の縮減に努め、より良い教育活動の実践を目指す。	① 平日は、19:30までに退校するために、1日の業務計画を立てる。部活動に関して年間計画、月別計画、実施表を作成して、適切な休養日を確保できるようにする。業務改善にも工夫をする。	教員の時間外勤務時間調査において、月平均の時間外勤務時間が A 40時間以下 B 40～45時間 C 45～50時間 D 50時間超	4月:C(48時間) 5月:D(51時間) 6月:D(51時間) 7月:B(43時間) 8月:A(27時間) 9月:B(45時間) 10月:B(41時間) 11月:A(39時間) 12月:A(34時間) 1月:A(35時間) 2月:A(35時間) 3月:A(36時間) →B評価(40.4時間)	春季は時間外勤務時間が多かったが、夏季以降は改善されてきた。令和4年度の1年間で、月平均の時間外勤務時間は40.4時間であった。令和3年度の44.1時間と比べれば改善されたが、目標とする「40時間以下」にはならなかった。 次年度も年間を通して管理職から声掛け等を行い、働き方に関する各自の意識改革をさらに進め、時間外勤務時間の縮減に努める。
学校評価関係者委員会の評価	時間外勤務が40時間を超えているのに、B評価はいいかなものでしょうか。朝早い時間のほうが、効率よく仕事ができる場合もあるので、いろいろと工夫してほしい。			
評価結果を踏まえた今後の改善策	働き方改革を意識しながら、業務の見直しをおこない、時間外勤務の縮減に努めていく。			